

10 「協働・協創」・「SDGs」

-
- (1) 「協創」の認知
 - (2) 協働・協創の実践
 - (3) 区役所・区民・団体の協働や協創による事業推進の評価
 - (4) SDGsの認知状況
 - (5) SDGsの関心状況
-

10 協働・協創

（1）「協創」の認知

問47 「協創」とは、平成28年10月策定の足立区基本構想により打ち出した「区民・団体・企業・NPO・大学など多様な主体がつながり支えあい、自ら行動する」新たな仕組みです。
あなたは、この「協創」を知っていますか（○は1つだけ）。

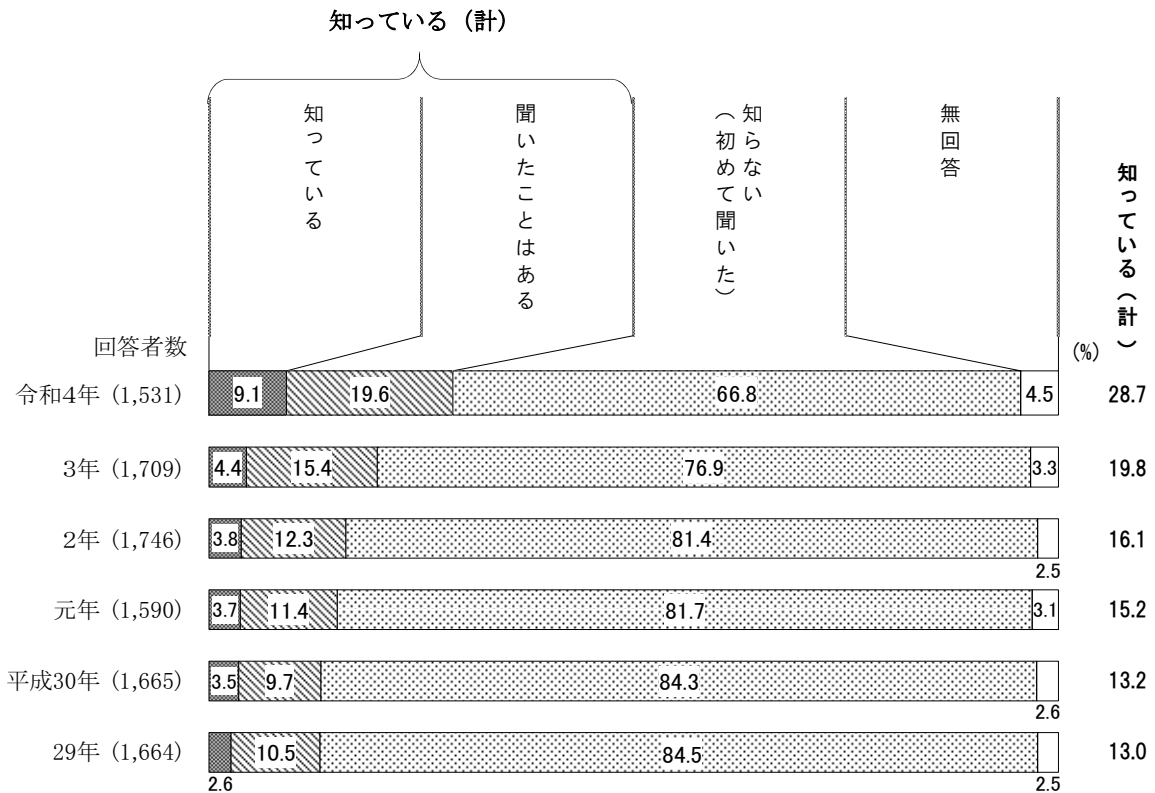
■【知っている】は、平成29年から漸増傾向だったが、今回大幅に増加し3割弱に

ア 単純集計・経年比較／「協創」の認知

（ア）「協創」について「知っている」が9.1%で、これに「聞いたことはある」（19.6%）を合わせた【知っている】は28.7%となっている。一方、「知らない（初めて聞いた）」は66.8%を占めている。

（イ）経年でみると、【知っている】は平成29年の13.0%から漸増傾向にあったが、今回調査では、前回調査（19.8%）から8.9ポイントと大幅に増加した。

図10-1-1 経年比較／「協創」の認知

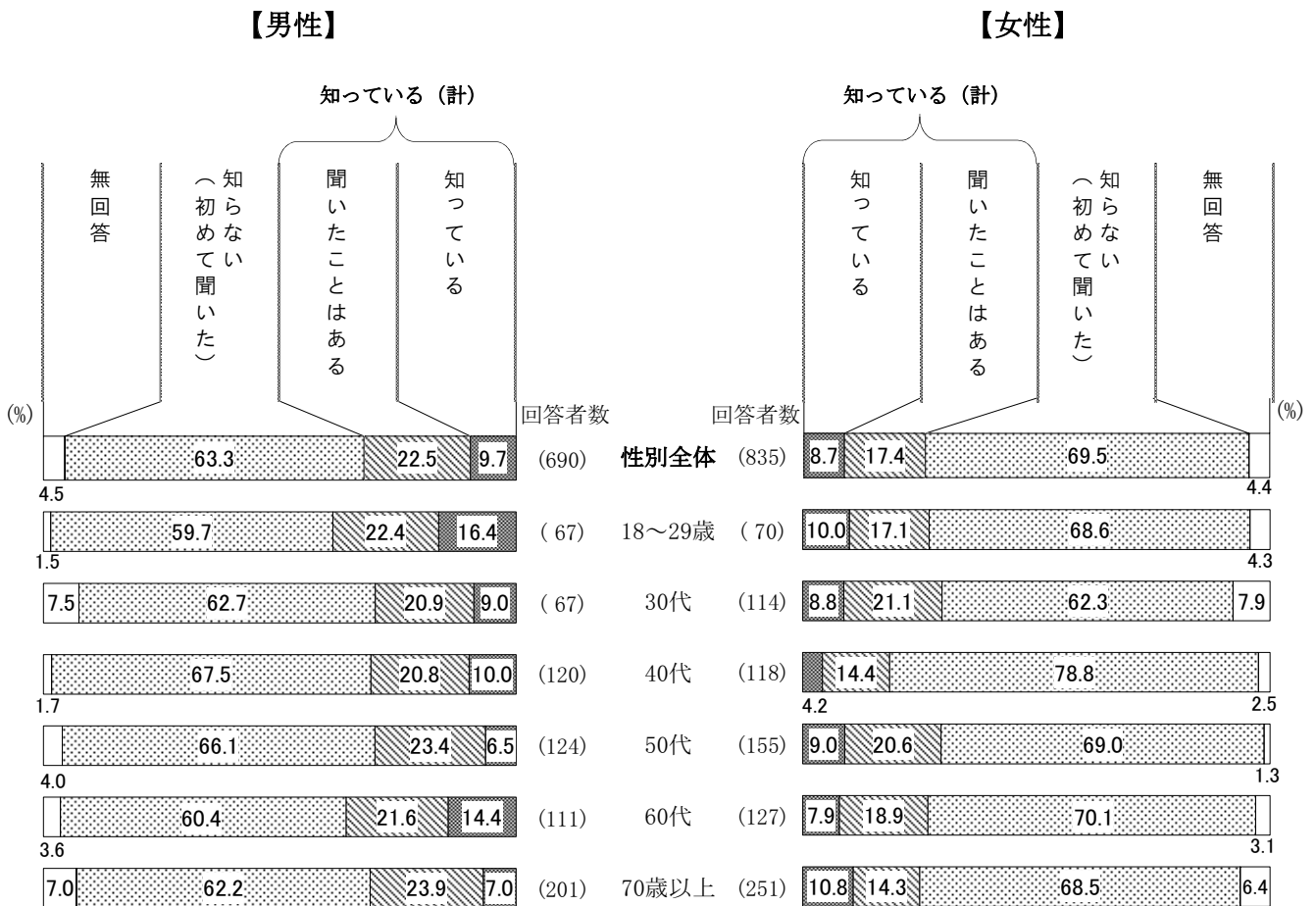


イ クロス集計・性別、性・年代別／「協創」の認知

(ア) 性別で見ると、【知っている】は男性（32.2%）の方が女性（26.1%）より6.1ポイント高くなっている。

(イ) 性・年代別で見ると、【知っている】は、男性の18～29歳で38.8%と最も高く、次いで男性の60代（36.0%）となっている。逆に、女性の40代が18.6%で最も低くなっている。

図10-1-2 性別、性・年代別／「協創」の認知



（2）協働・協創の実践

問47で「1 知っている」とお答えの方に

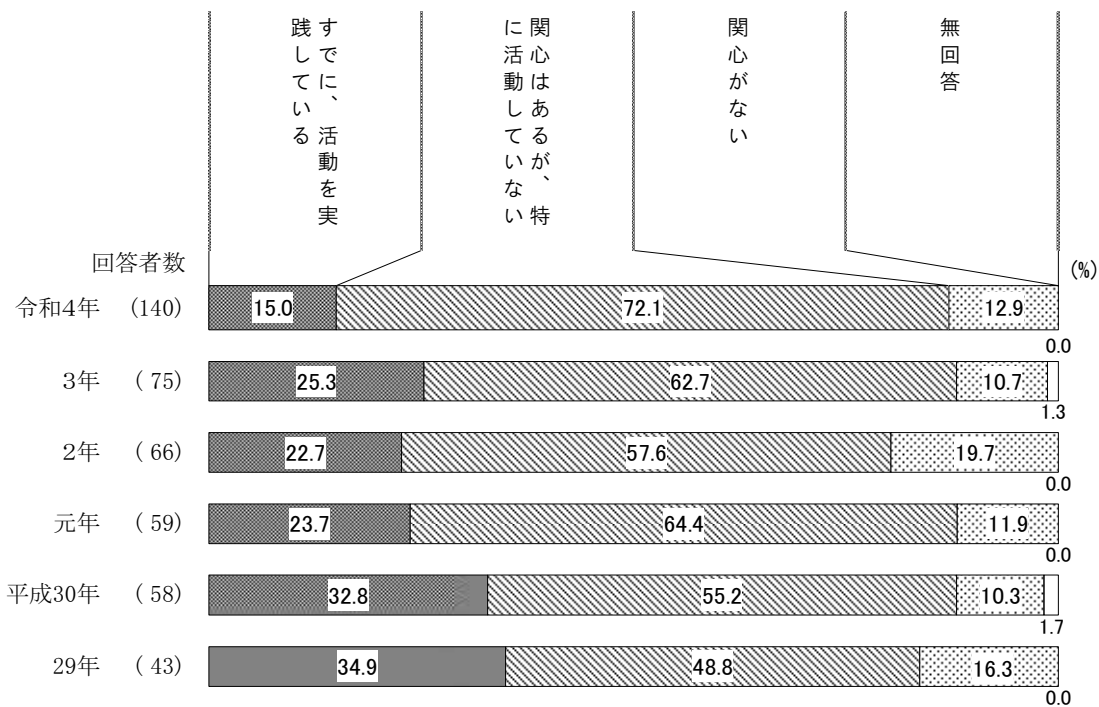
問47-1 あなたは、区役所・区民・団体との協力・連携（協働）や自主的な取り組み・活動（協創）を実践していますか（例 ビューティフル・ウィンドウズ運動や孤立ゼロプロジェクト、野菜から食べるベジタベライフ、子どもの貧困対策など）（○は1つだけ）。

■「すでに、活動を実践している」が10ポイント減少し、1割台半ば

ア 単純集計・経年比較／協働・協創の実践

- （ア）「協創」を「知っている」という人の実践状況を見ると、「すでに、活動を実践している」が15.0%で、「関心はあるが、特に活動していない」が72.1%で最も高くなっている。
- （イ）「協創」を「知っている」が、「関心がない」は12.9%となっている。
- （ウ）経年でみると、前回調査に比べて、「すでに、活動を実践している」は10.3ポイント減少し、「関心はあるが、特に活動していない」が9.4ポイントの増加となった。

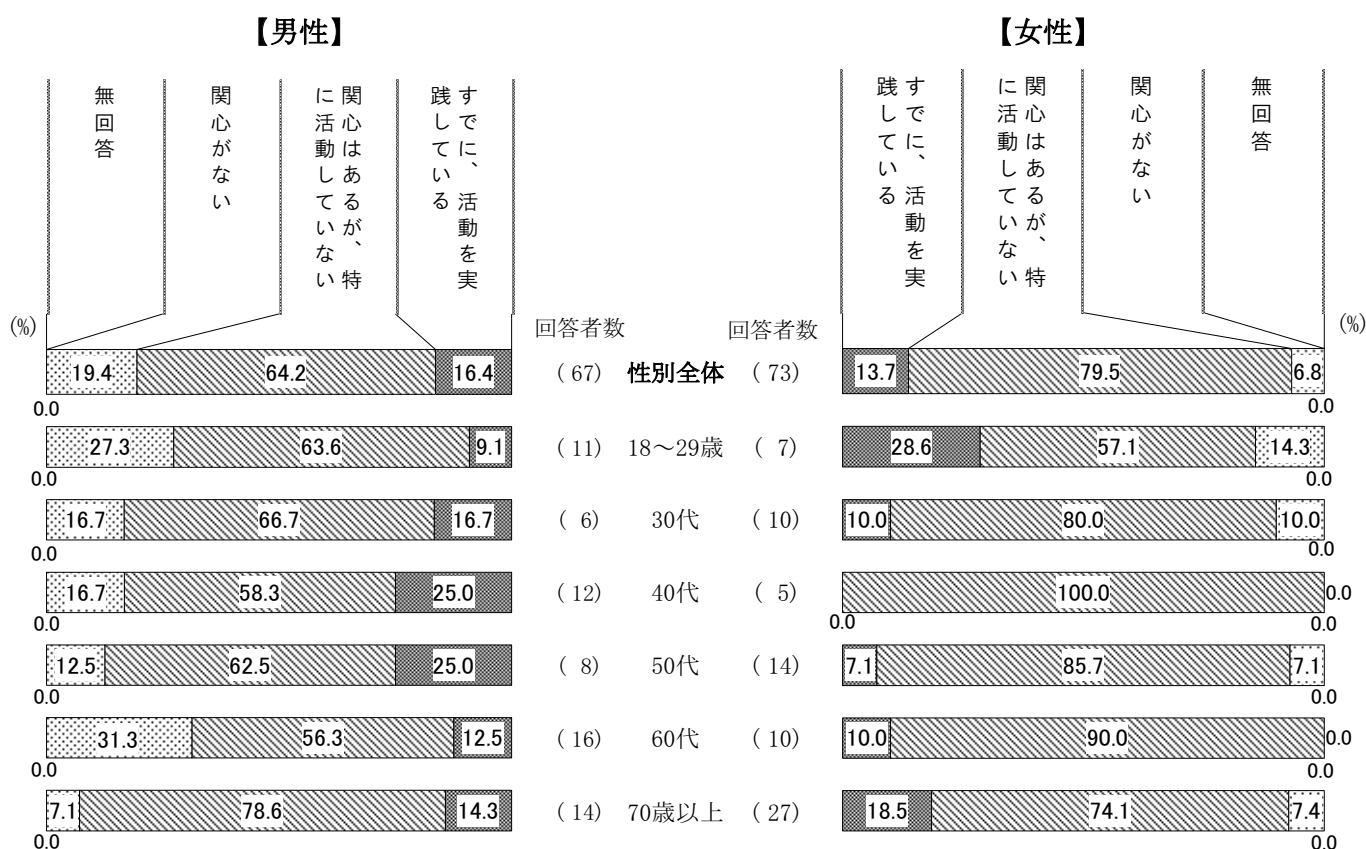
図10-2-1 経年比較／協働・協創の実践



イ クロス集計・性別、性・年代別／協働・協創の実践

- (ア) 性別で見ると、「すでに、活動を実践している」は男性（16.4%）の方が女性（13.7%）より2.7ポイント高いが、「関心がない」でも男性（19.4%）の方が女性（6.8%）より12.6ポイント高くなっている。
- (イ) 「関心はあるが、特に活動していない」を性別で見ると、女性（79.5%）の方が男性（64.2%）より15.3ポイント高くなっている。
- (ウ) 性・年代別では、すべての性・年代層でサンプル数が30未満のため、参考のために図示のみとし、コメントは割愛する。

図10-2-2 性別／協働・協創の実践



（3）区役所・区民・団体の協働や協創による事業推進の評価

問48 あなたは、区役所・区民・団体の協力・連携（協働）や自主的な取り組み・活動（協創）が進んでいると感じていますか（例 ビューティフル・ウィンドウズ運動や孤立ゼロプロジェクト、野菜から食べるベジタベライフ、子どもの貧困対策など）

（○は1つだけ）。

■【そう思う】（2割台半ば）が【そう思わない】を上回っているものの、「わからない」が5割

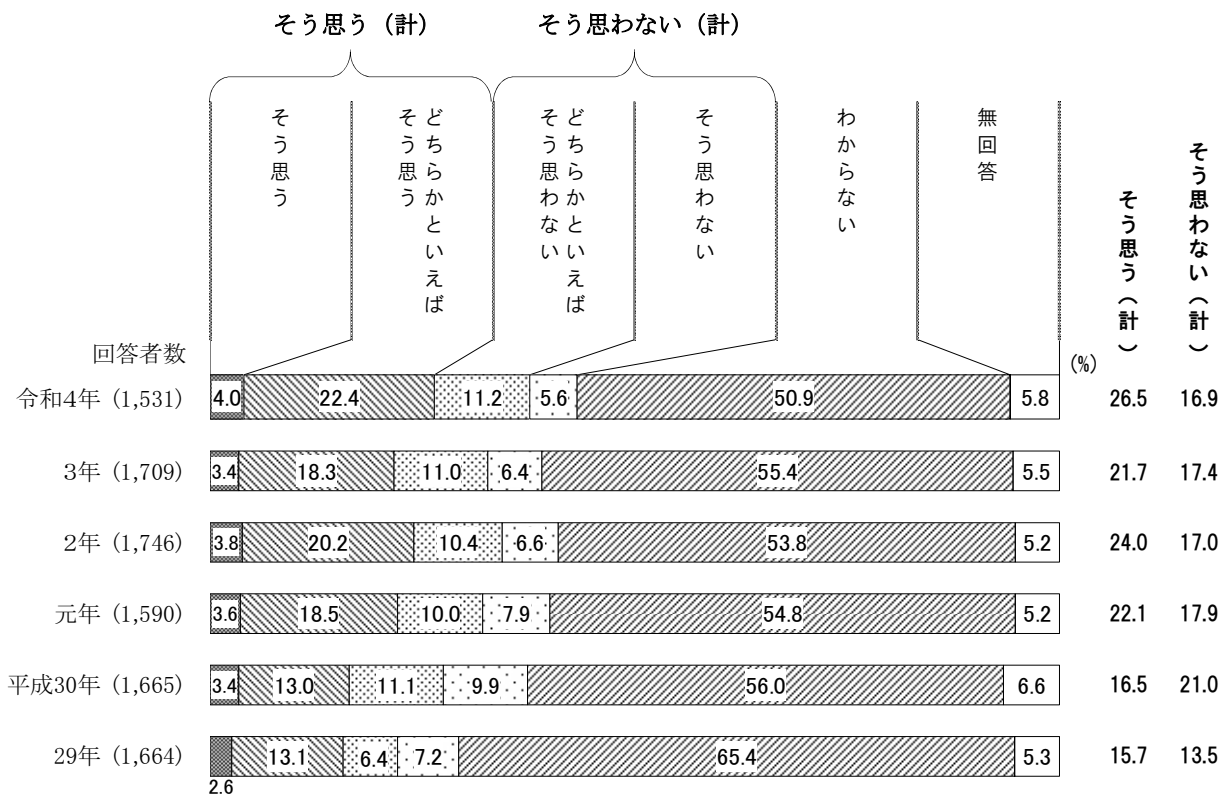
ア 単純集計・経年比較／区役所・区民・団体の協働や協創による事業推進の評価

（ア）協働や協創による事業が進んでいると感じるかについては、「そう思う」が4.0%で、これに「どちらかといえばそう思う」（22.4%）を合わせた【そう思う】は2割台半ばとなっている。

（イ）「どちらかといえばそう思わない」（11.2%）と「そう思わない」（5.6%）を合わせた【そう思わない】は1割台半ばとなっている。一方、「わからない」（50.9%）は5割を占めている。

（ウ）前回の令和3年調査と比較すると、【そう思う】は4.8ポイントの増加となっている。

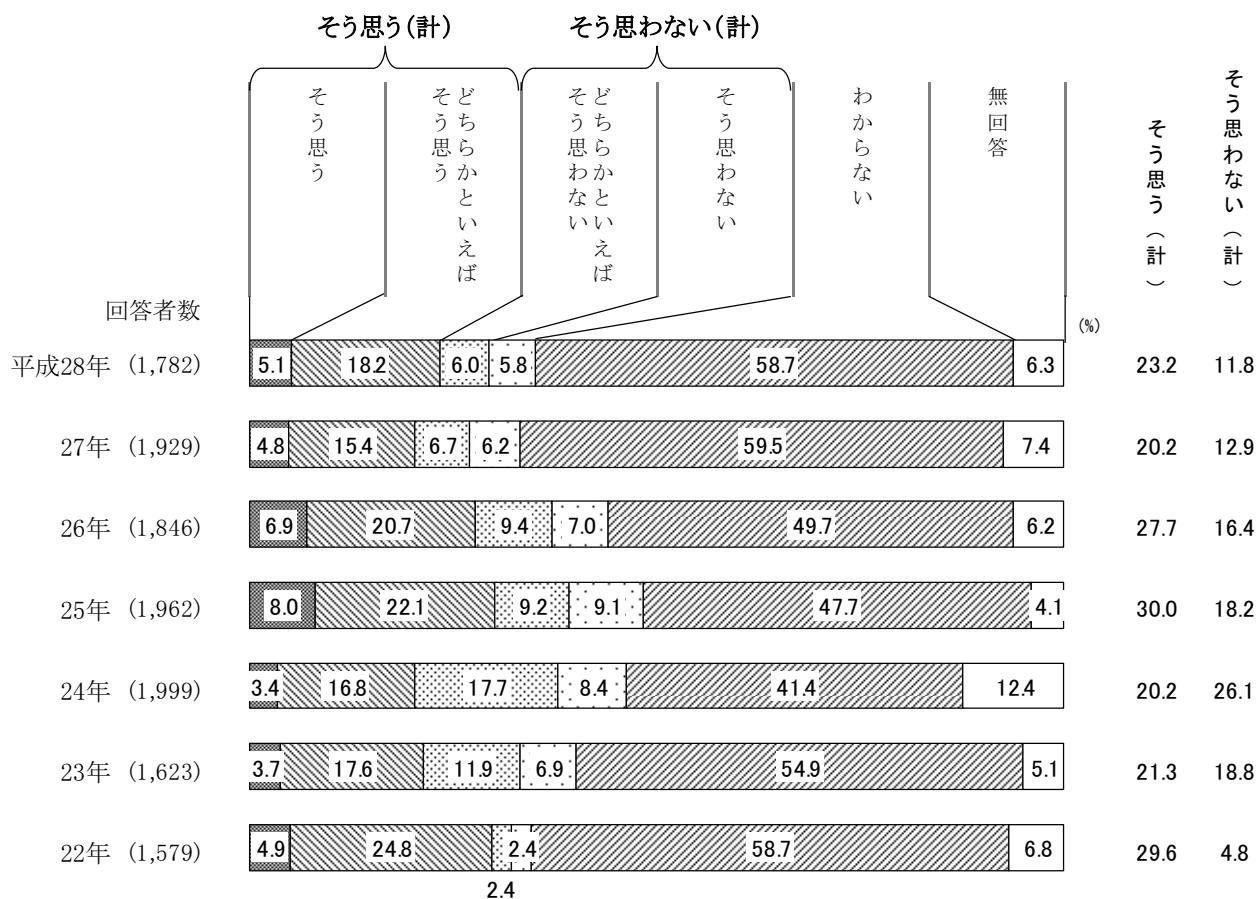
図10-3-1 経年比較／区役所・区民・団体の協働や協創による事業推進の評価



※ 平成30年度の設問文は「あなたは、ビューティフル・ウィンドウズ運動や孤立ゼロプロジェクト、野菜から食べるベジタベライフなど、区役所・区民・団体の協力・連携（協働）や自主的な取り組み・活動（協創）による事業が進んでいると感じていますか。」で、令和元年度には設問文の一部の表現が変わった上に、「子どもの貧困対策」が追加挿入された。令和2年度では、更に設問文の一部が、上記設問のように変更された。

参考／（平成28年以前）区役所・区民・団体との協力・連携（協働）した事業推進の評価

問 あなたは、区役所が孤立ゼロプロジェクトやビューティフル・ウィンドウズ運動など区民・団体と協力・連携（協働）して事業を進めていると感じていますか（○は1つだけ）。



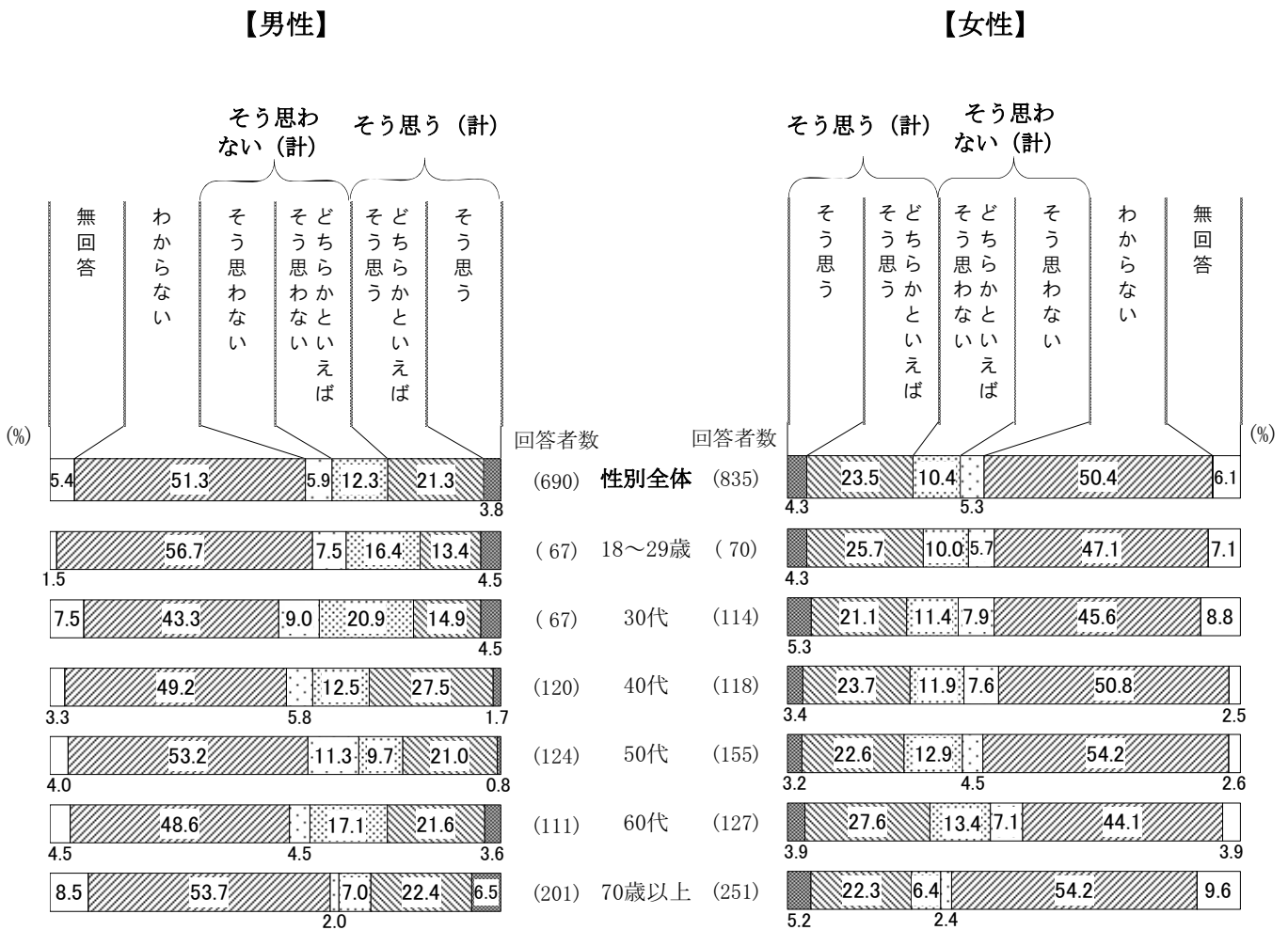
※ 平成28年度までは、「協創」の部分にふれておらず、設問文も違うため、結果を単純に比較することはできない。

イ クロス集計・性別、性・年代別／区役所・区民・団体の協働や協創による事業推進の評価

(ア) 協働や協創による事業が進んでいると感じるかについて性別でみると、【そう思う】と【そう思わない】ともに、特に大きな違いはみられない。

(イ) 性・年代別でみると、【そう思う】は女性の60代で31.5%と最も高く、次いで、女性の18～29歳が30.0%が続いている。一方、【そう思わない】は男性の30代で29.9%と最も高く、次いで、男性の18～29歳が23.9%が続いている。

図10-3-2 性別、性・年代別／区役所・区民・団体の協働や協創による事業推進の評価



（4）SDGsの認知状況

問49 あなたは、SDGsについて知っていますか（○は1つだけ）。

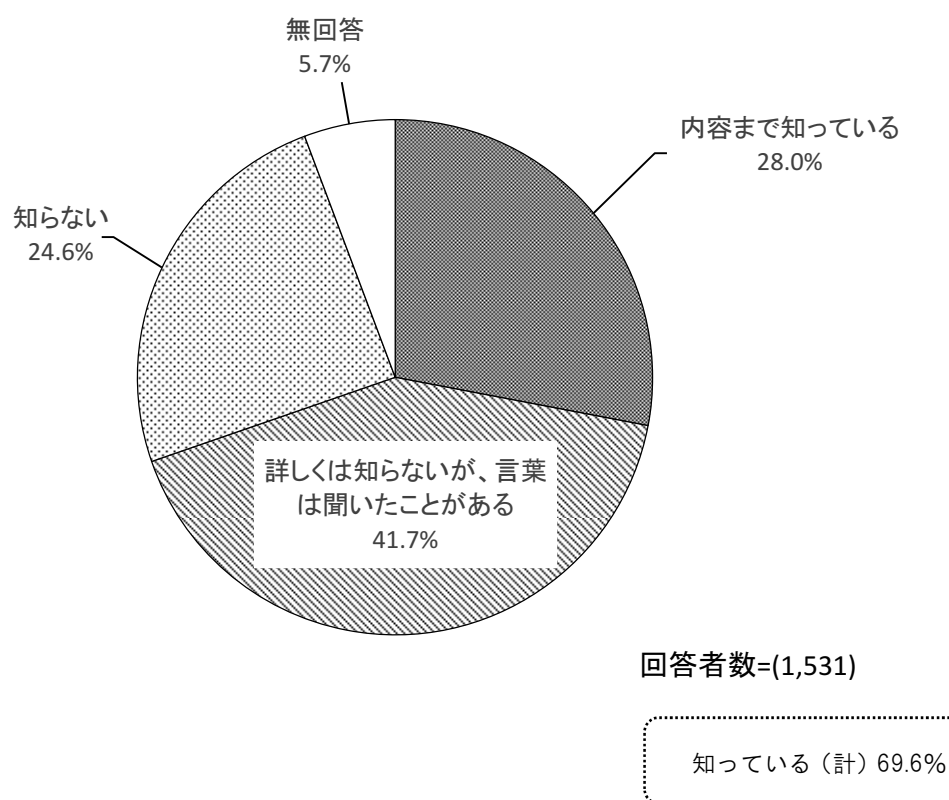
※ 持続可能な開発目標（SDGs）とは、2015年9月の国連サミットで加盟国の全会一致で採択された「持続可能な開発のための2030アジェンダ」に記載された、2030年までに持続可能でよりよい世界を目指す国際目標です。

■ 「内容まで知っている」が3割弱で、「知らない」が2割台半ば

ア 単純集計／SDGsの認知状況

SDGsの認知については、「詳しくは知らないが、言葉は聞いたことがある」が41.7%で最も高く、これに「内容まで知っている」（28.0%）を合わせた【知っている】は7割弱となっている。一方、「知らない」が24.6%となっている。

図10-4-1 SDGsの認知状況

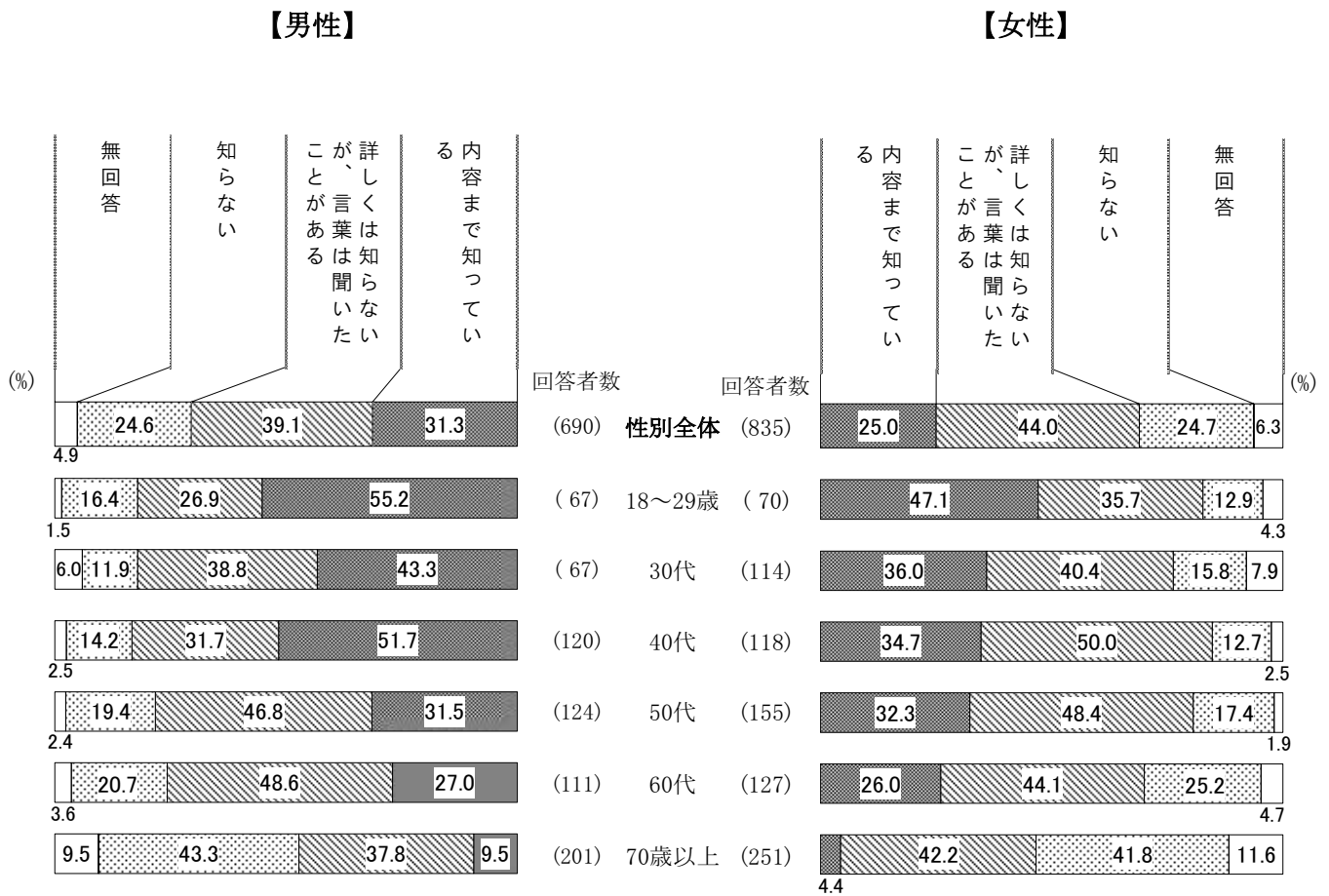


イ クロス集計・性別、性・年代別／SDGsの認知状況

(ア) SDGsの認知について性別で見ると、「内容まで知っている」は、男性（31.3%）の方が女性（25.0%）より6.3ポイント高くなっている。

(イ) 性・年代別で見ると、「内容まで知っている」は、男性の18～29歳が55.2%で最も高く、次いで、男性の40代で51.7%となっている。一方、「知らない」は男性の70歳以上が43.3%で最も高く、次いで、女性の70歳以上で41.8%となっている。

図10-4-2 性別、性・年代別／SDGsの認知状況



（5）SDGsの関心状況

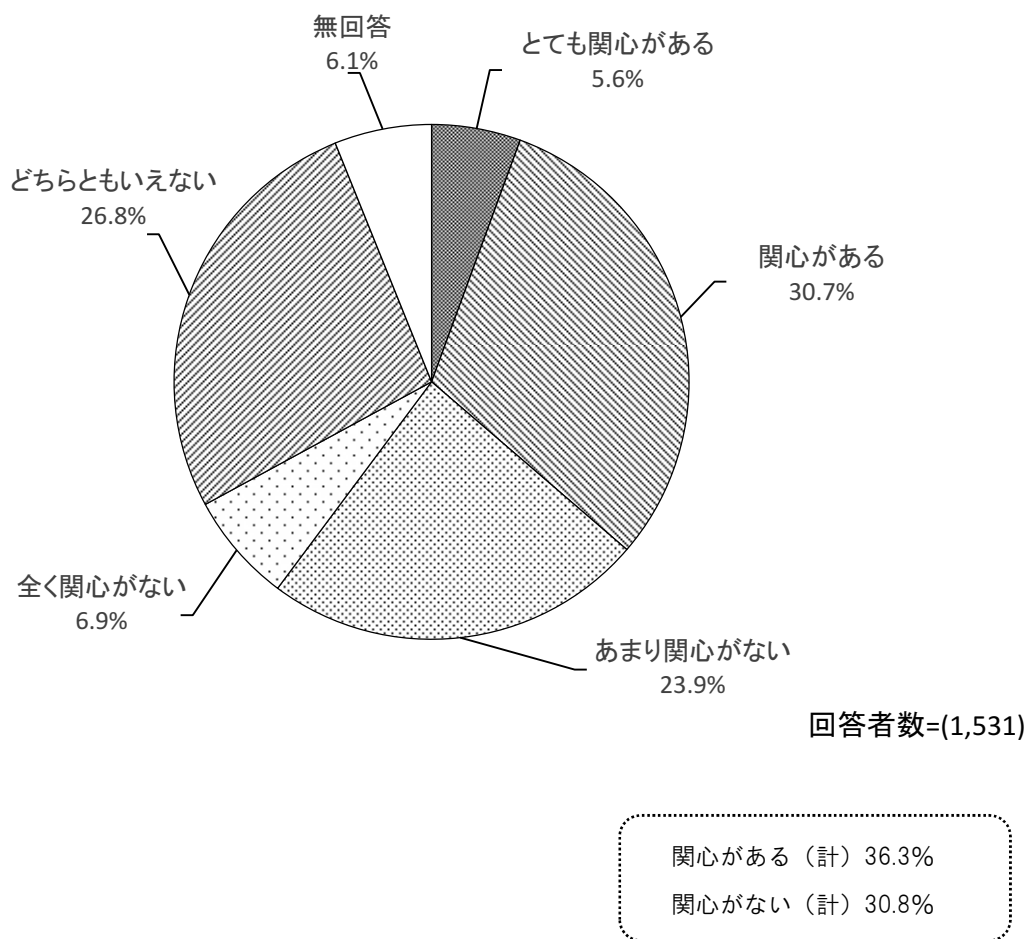
問50 あなたは、SDGsに関心がありますか（○は1つだけ）。

■【関心がある】が3割台半ば、【関心がない】が3割、「どちらともいえない」が2割台半ば

ア 単純集計／SDGsの関心状況

SDGsへの関心状況については、「関心がある」が30.7%で最も高く、これに「とても関心がある」(5.6%)を合わせた【関心がある】は3割台半ばとなっている。一方、「あまり関心がない」(23.9%)と「全く関心がない」(6.9%)を合わせた【関心がない】は3割となる。また、「どちらともいえない」は26.8%となっている。

図10-5-1 SDGsの関心状況



イ クロス集計・性別、性・年代別／SDGsの関心状況

(ア) SDGsの関心状況について性別で見ると、【関心がある】は、女性（37.7%）の方が男性（34.3%）より3.4ポイント高くなっている。

(イ) 性・年代別で見ると、【関心がある】は、女性の50代が51.0%で最も高く、次いで、女性の18～29歳で48.6%となっている。一方、【関心がない】は、男性の18～29歳が46.6%となっている。一方、【関心がない】は、男性の18～29歳が46.6%で最も高く、次いで、男性の30代で41.8%となっている。

図10-5-2 性別、性・年代別／SDGsの関心状況

